

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2021. No.370 5

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人（内12人が子ども）
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

コロナ禍での試練や不安は続きますが
祈り信じて互いに助け合っていますように

Contents

続報／エチオピア緊急支援 P.2

寄稿 ハンガーゼロ・パートナー P.3

Hunger Zero 活動報告
ルワンダ共和国／バングラデシュ P.4-6

設置しました！ハンガーゼロ自販機 P.7

写真：国内避難民（エチオピア・ティグレ州）

続報／エチオピア緊急支援

ティグレ州の国内避難民を助けよう

FH= 国際飢餓対策機構

■ エチオピア・ティグレ州 (2021年3月29日) ■

FHは内戦が続くティグレ州で緊急援助に当たっています。住んでいた場所を追われ援助を必要としている50万人の人々のために、新たに提供される資金により、食料を配給します。また43,600世帯余りを対象にライト(照明)、毛布、就寝用床マット、調理器具、衣服および水の供給ならびに保健衛生サービスを提供します。FHは主要地域のパートナーと連携して、トイレやシャワー設備の設置・運営・維持ならびに水の供給を行うと同時に保健衛生に関するトレーニングを実施します。

不衛生な一時避難所での暮らし

現在ティグレ州の全人口の81%に当たる450万人以上(出典：国連人道問題調整事務所)が人道的支援を必要としており、そのうち73万7,000人が国内避難民となっていると推測されています。緊急援助調整センター(ECC)によると、ティグレ州で現在も続く戦闘を逃れて避難してきた人々(国内避難民)は州都のメケレに95,000人います。そのほとんどが学校などの一時避難所で暮らしており、雨風を凌ぐことや身の安全を守ることが困難な、不衛生で非人間的な状態に置かれています。

国連の国際移住機関によって、国内避難民の定住型キャンプとして指定されたメケレのセバカレ(Sebacare 4)キャンプでは、第一段階として5,500人の国内避難民を受け入れるための1,100の仮設住宅が建設されます。そして、第2段階では更に10,000人の受け入れを想定しています。

FHは国連機関と連携して、仮設住宅、食料以外の日用品、水の供給、保健衛生サービスの整備などの準備を進めていきます。またこの国内避難民キャンプにおいて1,100世帯への水の供給と保健衛生サービスを提供します。

世界の皆さんと力を合わせて

FHエチオピアの代表は「影響を受けた人々の最低限の必要がいち早く満たされ、人としての尊厳を回復することができるよう、これまで対応に当たってきた職員を再派遣しました。またそれらの緊急援助活動が速やかに行われるように職員の増員を進めています。私たちエチオピアチームは、世界的なネットワークで繋がる皆さんと共に、変化していく状況に合わせてでき得ることのすべてを全力で行っていきます」と語っています。



緊急募金にご協力ください(2つの方法があります)

①郵便振替

00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
「エチオピア緊急援助」と明記のこと。

②クレジットカード

QRコードからJIFHホームページに入り
「エチオピア緊急援助」をクリック。



ロングライフタウン寝屋川公園 フレンツェの丘

私たちロングライフグループは、
ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。



Health & Natural Beauty

ロングライフグループ



0120-550-294

受付時間
9:00~18:00
年中無休

大阪本社／〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社／〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階
ロングライフグループ拠点：北海道／埼玉／東京／神奈川／千葉／静岡／愛知／大阪／兵庫／京都／大分／沖縄／中国(青島)／韓国／インドネシア(ジャカルタ)

3月27日(土)、Zoomでのオンラインイベント「**アフリカへ Go Together Project**」を実施しました。クイズや動画を通してアフリカを旅し、アフリカに興味を持ってもらうという趣旨のイベントで、子どもから大人まで約50名の参加でした。このイベントは、ハンガーゼロの協力者であるハンガーゼロ・パートナーさんが発案し多くのパートナーさんたちが準備をしてくださって開催に至りました。発案者である田中裕子さんに、パートナーになられたきっかけや、企画への思いを書いていただきました。

の方々と多くの時間を過ごし、「支援」は1人ではできない、まさに Together (一緒に) の大切さを学ばせていただきました。縁あって一緒に活動させていただくことになり、今では感謝の気持ちでいっぱいです。



Go Together しましょう!

「私にも何かできないかな?」と思う方は沢山いると思います。では何をしたらいいのか。寄付?支援?と考えているうちに時が過ぎ…支援は大切と思っているのに、なかなか一歩が踏み出せない。今で言う「あるある話」ですよ。何を隠そうこの私、最後の一歩がなかなか踏み出せませんでした。コロナ禍になり、パソコンを見る機会が増え、懲りもなく「私も何かできないかな?」と…。

そこで、目にしたのがハンガーゼロの「わたしから始める世界が変わる」という文字でした。その言葉に「援」より「縁」を感じ、パートナーに応募いたしました。縁?ダジャレ?と思う方も多いと思いますが、支援には、縁も大切と私は思うのです。

今回、企画した「アフリカへ Go Together Project」。知らない国へ寄付し続けることは難しいことです。そこで、「支援」より、まず先に「一緒に行って見てみよう、知ってみよう」の大切さを伝えたいと思いました。もちろんパソコン上ではありますが、アフリカの土地、文化、魅力を見て知って頂き、そこに住む人々をまずは「応援」して頂きたい! そのような気持ちで企画させて頂きました。

第1回目を開催するまでスタッフの方々、またパートナー



HZ パートナー
田中裕子さん

「縁」「円」「援」の輪を広げながら

このイベントがこれからも続き、参加者の方々とも素敵な「縁」でつながり、アフリカを共に応援する仲間の「円」が広がる…そして「支援」へとつながる…。

パートナーとして「縁」「円」「援」の輪が広がるよう、これからも「わたしから始める」を忘れず頑張りたいと思います。ハンガーゼロのパートナー活動を通じて私の世界が広がりました。みなさん、ぜひ「アフリカへ Go Together Project」に遊びに来てください。アフリカへ、これからの世界へ、Go Together しましょう! お待ちしています!

▶▶▶ ハンガーゼロ・パートナーとは

ハンガーゼロの協力者の方々と、世界から物心両面の飢餓をなくすため、「わたしから始める、世界が変わる」を実践し、その輪を広げる担い手となってくさっている方々のことです。イベントの手伝い、広報の協力のほか得意分野を活かして活躍してくださっています。なおハンガーゼロ・パートナーについては東京事務所までお問い合わせください。



当日に Zoom で参加者に配信されたアフリカの旅画像

Okuda DESIGN PROJECT

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

インターネットでお部屋探し。
www.okuda-re.co.jp

代表取締役社長 奥田 英男
 〒197-0003 東京都福生市熊川 447-9
042(552)0102(代)

※「協賛広告」を募集しています。ウェブにも掲載。詳しくは東京事務所・近藤まで



Hunger Zero 活動報告 ルワンダ共和国

FHルワンダではハンガーゼロと共に、主にサルヘシコミュニティの3つの村において健康、教育、生計及び災害リスク軽減に関する活動を行っています。以下は2020年10月～12月の活動報告です。

持続可能なコミュニティ実現のために

健康

栄養バランスの取れた食事をするために、コミュニティの人々に野菜を摂取することを勧め、家庭菜園を奨励しています。72人が集まって家族の健康のための家庭菜園の役割について学び、新しい家庭菜園が38出来ました。目標は100です。一方野菜の種18kg（ビーツ、ほうれん草、人参、玉ねぎ）を300家庭に配りました。将来は果物も取れるように250家庭にマンゴーとアボカドの種を500ずつ配布しました。



算数セットを配りました。

生計

【貯蓄グループ】 家庭の生計を改善するためにFHは、貯蓄グループを作ることを勧めています。サルヘシコミュニティに3つの貯蓄グループを作る手伝いをしました。

【農業技術】 家庭での持続可能な食料確保のために100人の農業従事者に農業技術改善のトレーニングを行い、そのうち13人がそれを実践しています。

【収入向上】 新種のバナナの苗1,040本を52家族に配布して、バナナの生産能力を高めて収入の向上を図っています。



写真：村の人々は、ハンガーゼロから支給された良い豆と大豆の種からの収穫を楽しみにしています。改善された農法が行われているので多くの収穫があることでしょう。

【畜産】 2021年2月に75のコミュニティのメンバーに家畜の育て方の指導をする準備が整えられ、豚50頭とヤギ25頭を準備しました。

災害軽減

【土地の改良】 土地の生産能力を低下させる土壌侵食を防ぐために、229家族に2,041本の森林農業用の木の苗を配布しました。

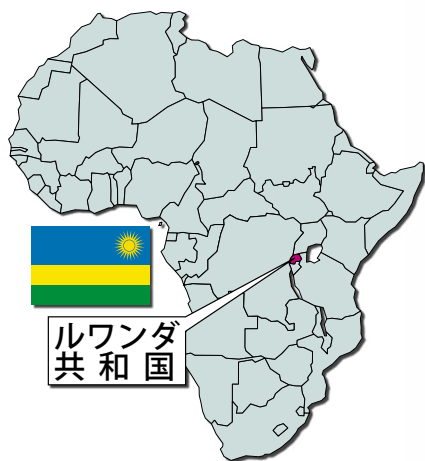
教育

子どもたち同士の関係を良くすること、および子どもたちの心の成長を目指して、クリスマスパーティーを行い、イエス様が私たちを愛してくださっているように、互いに愛し合うことを学びました。サルヘシコミュニティの3つの村のサポートチャイルド100名が



兄弟姉妹と共に集まって、ジュース、ビスケット、ボンボンをもらいました。

教育の質の向上のためには、継続して学校に通うことが大切です。子どもたちが学用品がないために学校を休むことのないように、サポートチャイルド100名に練習帳、ペン、



ハンガーゼロ 活動地の ウイズコロナ



各学校に手洗い場を設置

政府の2度の外出禁令で感染者が7割減

ルワンダで最初のコロナ感染者が出たのは2020年3月14日でした。3月21日から感染防止対策として外出禁止令が出されたほか公共の場到手洗い場が設置され、マスク着用やソーシャルディスタンスの方策がとられました。またすべての学校が閉鎖されました。この外出禁止は2ヵ月間でしたが、小学校高学年と中学校は2020年11月まで休校、小学校低学年と幼稚園は2021年1月に再開されたばかりです。

ルワンダの首都キガリでは感染者増加のために2021年1月11日からすべての学校は休校となり1週間後には2度目の外出禁止令が出されました。2月7日には解除されましたがキガリの学校だけはまだ休校中です。しかしながらルワンダ生物医学センターは、2度目の外出禁止が功を奏して72%減少したことを確認しています。

〔FHルワンダ〕

サルヘシで感染防止キャンペーン

FHルワンダの支援地域では学校が再開され、子どもたちは感染防止策をとりながら学んでいます。政府はこの6ヵ月、生徒の間でソーシャルディスタンスがとれるように教室の数を増やして各クラスの生徒数を減らしました。

コミュニティのボランティアと現地のFHスタッフのキャンペーンによって、人々はコロナの感染防止について知っています。この活動のほかにFHは子どもたちにマスクと消毒用品を配布しました。また子どもたちが常に手洗いができるように支援地の学校に手洗い場を設置しました。同様にコミュニティの水道管の復旧や延長も行っています。

サルヘシコミュニティではFHのボランティアの人たち全員がコミュニティの人々にコロナ感染防止策を伝えることができるように訓練を受けました。そしてボランティアの人たちにはマスクと手の消毒液を支給し、生徒たちにもマスクと消毒用品を配布しました。このような状況の中で多人数の集会以外の活動は通常通り行われています。15人以下の小グループは集まることができます。



子どもたちに感染予防キットを配布



常時手洗いができるように水源を復旧



コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。
ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右QRコードから
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記
募金集計：2021年3月6日現在で約945万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに

ハンガーゼロ
活動地の
ウィズコロナ



FHB=FH バングラデシュ

地域と子どもを守る緊急プロジェクト!!

バングラデシュではコロナの感染拡大によって多くの地区でロックダウンが行われ、地区間の移動が厳しく制限されたために、他のコミュニティ同様マチュパラの人々にも大きな影響を与えました。全ての市場は閉鎖され、日雇い労働者の収入がなくなりました。FHBの活動もこの世界的な危機によって妨げられましたが、通常のプロジェクトを延期し、新しく『コロナ緊急対応プロジェクト』を立ち上げました。

マチュパラではFHBのスタッフが携帯電話を用いてコロナの症状や予防法、衛生、手洗いの方法、マスクの正しい使い方、ソーシャル・ディスタンスの確保などの情報を送り続けました。遠く離れた所にも届くように拡声器を使って伝え、3万人余りがこの情報を得ることができました。同時にチラシ1,000枚が配布され、更に看板が4枚立てられました。コミュニティの交差点4カ所に臨時の手洗い場が設けられると同時に、366人の子どもたちが手や衣類を洗うための衛生キット（石鹼、粉洗剤）を受け取りました。

食料入手困難な最貧困家庭を支援

コロナの大流行はバングラデシュ経済に深刻な衝撃と食料危機をもたらし、貧しい家庭をさらに貧困ライン以下にさせています。マチュパラの人々は、ほとんどが他人の畑で日雇い労働者として働き、賃金は出来高払いなので収穫時期によって変わります。この地域での仕事がない場合は、人々は近くの町に家族で移動して仕事を探します。しかし

コロナのために人々は仕事を探しに出かけることができませんので、FHBは14家庭にヤギを、36家庭に鶏とアヒルを支給しましたが、他の人々もまた支援を求めています。収入が落ち込んだことで、貧困家庭は食料不足に陥っています。FHBはコミュニティのリーダーとボランティアの人たちの協力のもと、マチュパラの505の最貧家庭に米5kg、レンズ豆1kg、油1リットル、塩1kg、石鹼1個の緊急支援を行いました。人々は喜び、この支援に感謝していました。

両親による幼児の学びを助ける

バングラデシュのすべての教育機関は、コロナのため2020年4月から閉鎖されています。政府は2021年5月から6月には再開する予定にしています。同様にFHBの幼児発育センターも2020年3月から閉鎖されていますので、FHBは両親が家庭で幼児の学びを助けることができるようにガイドラインを作成しました。これは幼児教育のカリキュラムに基づいてFHBが1年間の学習計画を開発したものです。ガイドラインには3つの主なアクティビティ、すなわち識字や計算学習の前準備、独創的な作品作り（ライム、お絵かき、お話）などが含まれています。

教師たちは、コロナ感染予防をしながら一軒一軒の家庭を訪問してガイドラインを配り、このアクティビティをどのように進めるのか両親に理解してもらいました。マチュパラの92人の幼児たちがこの恩恵を受けました。



特定医療法人宝山会の奈良小南病院（奈良市八条 5-437-8）が災害備蓄対応のハンガーゼロ自販機を設置してくださいました。医事課・地域連携主任の北村尚紀氏は、ハンガーゼロのサポーターでもあります。病院を訪問してお話を伺いました。

設置しました！ ハンガーゼロ自販機

ドリンク1本から募金ができる、備蓄にも役立つ

Q 設置の経緯について

学生の頃からハンガーゼロの清家理事長と交流があったこともあり、ハンガーゼロの活動は知っており、私もサポーターを続けています。毎月送られてくるハンガーゼロニュースで「自販機設置による募金」という方法もあることを知り、ホームページを見て募金の仕組みがわかりました。

その後、当医療法人の小南香恵子理事長（写真⑥）と話す機会があり、この自販機募金について提案してみたところ「特に費用負担がないのであれば」ということで承認してもらうことができました。すぐにウェブサイトから設置について問い合わせをしました。するとなんと私のことを覚えていた清家さんから連絡が入り、設置について詳しく聞くことができました。その後、飲料会社のキリンビバレッジさんとの諸手続きを経て、今年の2月はじめに設置が実現しました。



備蓄のパン缶と水の使い道でアイデアも

Q 自販機の反応や利用状況は

自販機利用は、コロナ禍の中でもあり病院に来られる患者さんよりも今は病院スタッフの利用が多くなっています。スタッフの全体会議でこの募金型自販機のことを周知したこともよかったと思います。その際、自販機と一緒に提供された災害備蓄用のパンの缶詰の利用について皆で検討してみました。その中で、2年間災害が起これば使う機会

がなかった場合は、まず自分たちで備蓄用を試食してみる。その次の更新時には国内外で必要とされている方々への寄付とする、などのアイデアが出ました。ペットボトル水については、消費期限が過ぎても医療施設なら飲料用途以外でも使えるので、こちらで有効活用することを考えています。

ハンガーゼロの活動を知ってもらえる

Q 良かったことは

とにかく募金の仕組みがわかりやすいと感じています。何か特別なこととするのではなく、日常の行為であるドリンクを買うことが、世界で飢餓・貧困に苦しむ方々の支援につながるというのは参加しやすい募金のあり方だと思います。

また、設置を通じてハンガーゼロの活動を来院者やスタッフに知ってもらえる機会になったことは、ハンガーゼロの支援者の一人として嬉しく思います。

最近では、ハンガーゼロニュースを読んだ小南理事長から「書き損じはがきも募金になるのね」といっていただきました。今後この自販機利用での募金額の報告が届けましたら、皆さんにもお知らせして、この支援活動に少しでも貢献できたことを共に喜びたいと思います。



当医療法人には、大阪と和歌山にも病院があり、また介護老人保健施設や有料老人ホームなどの複数の事業、施設がありますので、できればさらに自販機が設置されて支援の輪が広がれば嬉しいなと思いますね。



自販機設置のご相談は、東京又は大阪事務所まで。JIFH のホームページに資料を掲載。右のQRコードから入れます。

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。

企業・団体からの応援を感謝

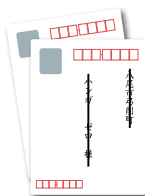
ハンガーゼロの協力企業である八尾トヨー住器(大阪府八尾市)さんが、このほど募金を寄せてくださいました。この募金活動では、同社の金子社長(下写真⑤)の呼びかけに賛同していただいた、同社の取引先企業も加わっていただきました。



また、支援団体のグレース宣教会(キリスト教会、大阪府八尾市)の婦人会も、年間を通して行った小規模チャリティーバザーの売り上げから募金を寄せてくださいました。コロナ禍においても、多くの企業や団体、グループの支援者様からも応援をいただけますことを心より感謝申し上げます。

「書き損じはがき」でも協力することができます

書き損じた「はがき」やポストに未投函のもの(書き込み、汚れのあるもの、私製ハガキは不可)、また消印のない未使用「切手」がありましたら、**大阪事務所までお送りください。**国内外の通信に用いさせていただきます。



ご好評に応じて再登場

3種のコーヒーセット

一番人気のフェアトレードレギュラーコーヒー(粉)です。それぞれの豊潤な風味、個性をお楽しみください。

品名:モカブレンド、スマトラ、ブラックファーストブレンド
原産国:エチオピア、ニカラグア、インドネシアなど

各200g入り3種1セット。

送料込み 3,300円

でお届けします。

(全国同一価格)

【お支払い】後払い

お申し込み:(株)キングダムビジネス
スマートフォンは上記QRコードから
電話注文:06-6755-4877
FAX注文:06-6755-4888



各種手続きにお時間を いただいております

当機構各事務所ではコロナウイルスの感染対策として、一部テレワークを継続しています。支援者の皆様への電話対応・領収証の発行・支援申し込み手続きなどで、通常よりお時間をいただいております。ご理解のほどお願い申し上げます。なお急ぎのご用件は、お電話でご相談ください。

(事務局)

詳しくはこちら▼

国際協力に参加する活動の第1歩目として... YouTubeのチャンネル登録や各種SNSのフォローをお願いします!

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名			
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL 370号

☒	下記から希望されるものをお申し込みください
☐	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □ (1000円) ②一時募金として 円協力します。
☐	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □ (500円)
☐	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
☐	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
☐	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **5013**

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロで検索!

Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
(広島) TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
(東北) TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,099,481ポイント(円)のご協力(11,525件)がありました。Tポイント募金で検索。
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。